

<講演内容> 園児がかかりやすい症状等について

1 発熱

保護者は、高熱を心配し受診に訪れるが、問題は熱の高さではなく症状。熱があっても元気ならいい。体温計だけを判断基準にせず、子供の様子の観察が重要。症状も検査も時間がたたないとわからない。病院は実は危険な場所、軽症の児は『病院に来て別の感染症をもらって帰る』ことも多い。発熱後数時間では診断できない、慌てて受診をさせない。検査はある程度症状が進んだ状況でないで行う意味がない。急変がない限り、翌日に受診するくらいの対応で充分。

2 インフルエンザ

毎年流行し多くの患者が発生するが、免疫力が低下した老人や新生児でなければ亡くなることはほぼ無い。『インフルエンザは重症になることもある』という正しい知識を広めて欲しい。

3 医者が処方する薬

①症状を抑える薬(解熱剤など)

解熱剤に病気を治す力は無い。確かに一時的に元気にはなるが、効果が切れるとよりぐったりしてしまう。熱を出して体はウイルスと戦っている。

②原因をやっつける薬

子供の病気のほとんどはウイルスが原因。抗生剤もあるが、根本的にウイルスをやっつけることが出来る薬は無いと考えた方が良く。日本は抗生物質を使用しすぎている。

4 いくつかの病気と感染拡大防止対策

RS ウイルス、手足口病、胃腸炎等の園児がかかりやすい病気に対して原因と主な対策の要点をまとめて解説。

5 ケガ=事故は怖い

子供の死因で多いのは統計上事故。病気よりも多い。交通事故・異物誤飲・水の事故などの防止の助言・啓発を行って欲しい。その他、打撲・捻挫・骨折・出血を伴うケガ・虫刺されなどについて、皮膚保護剤(キズパワーパッド)等の使い方等についても細かく説明。

6 事前に園の先生方から受けていた質問への回答について(講義の中で話した内容は除く)

- 食物アレルギーの知識と救急対応とアナフィラキシー症状の対応
- 医療機関が保育所等にお願いしたいこと
- 最近の感染症の様子や対応の仕方

- 抱っこ中に子供が嘔吐した際①抱っこしていた保育者②嘔吐がかかっている保育者のどちらが処理をしたら感染リスクが低いのか
- 熱中症と風邪等の熱との違い、見分け方、救急搬送時に伝えてほしい項目
- 保護者に受診をお願いする際、専門医と小児科(かかりつけ)のどちらを受診していただくべきなのか